

## 平成20年の脳神経外科

脳神経外科医長 徳光 直樹

## 診療状況

平成12年10月以降7年半もの間メンバーに変化がなく、佐古院長・相澤診療部長・白井医師と徳光の計4名で診療を行ってきた脳神経外科ですが、平成20年4月からは脳血管内治療を専門とする和田 始先生が新たにメンバーに参加してくれ、治療法の選択に幅ができ、その結果としてメンバーの士気向上に貢献してくれたものと思われま

す。外来診療は、午前中は従来通り月曜～金曜まで2診制で行いました。なお、平成20年3月まで午後の外来診療は行っておりませんでした。4月からは診療スタッフが一名増えたこともあり、カンファアランス・院長総回診のある木曜日以外は、午後も1診制で外来診療を行い、月・水・金曜午後には脳ドックを開催いたしました。

入院病棟は、前年同様3階-東病棟に35床で開始しましたが、11月のICU稼働により2床減じ33床での運用となっています。年間の総入院患者数は520名でした。平成19年の総入院数445名と比べ

17%増であり、診療スタッフの一名増加とそれともなう外来診療枠の増加などが奏効しているものと思われました。なお入院患者の内訳は、急性期脳卒中症例が283名(54.4%)であり、例年ほぼ同様の値を示します。また脳腫瘍症例は11例(2.1%)で、こちらも前年と著差はありません。いっぽう頭部外傷の症例は71例(13.7%)で、平成19年が55例(12.4%)であったの比べやや増加しており、このことも総入院患者数の増加に影響したものと思われま

す。手術総数は144件で、前年比12件増でした。おもな手術の内訳は以下の通りです。脳卒中治療ガイドライン2004の出版以来脳出血の外科治療の適応は狭まり、年々漸減する傾向が見られましたが、平成20年4月に頸動脈ステント(CAS)が保険診療の適応となったことで、以前は頸動脈内膜剥離術(CEA)では治療困難であった症例にも治療を施すことが可能となり、平成19年までは数例/年でCEAとほぼ同症例数だったCASがいきなり増加、このため手術総数が微増できたものと思われま

それでは今後もよろしくお願いたします。

総数144件（定期手術：74件、臨時手術：70件）

脳動脈瘤	52件	脳腫瘍摘出術	10件
開頭・clipping	44件	微小神経血管減圧術	0例
coil塞栓	8件	頭蓋内血腫除去術	4件
脳動静脈奇形塞栓	1件	慢性硬膜下血腫穿頭術	28件
血行再建術	23件	水頭症手術	11件
CAS	14件	頭蓋形成術	8件
CEA	5件	減圧開頭術	3例
PTA(PTR)	4件	脳室ドレナージ術	2例
EC-ICバイパス	0件	頸椎前方固定術	0例
		その他	2例